情動知能尺度 EQS とカリフォルニア人格検査 CPI の関連性

大野木　裕　明

本稿の目的は、情動知能（感情的知性、あるいは EI、EQ。海外の学術論文では EI の語が使われるが、ここでは総称して「情動知能」とする。）とパーソナリティ特性との心理学的な関係を検討することである。このたび、日本で開発された情動知能測定尺度の１つである EQS（情動知能尺度）とパーソナリティテストの１つである CPI（カリフォルニア人格検査）間の相関的資料を得たのでここに報告する。

EQS（emotional intelligence scale）は内山・島井・宇津木・大竹（2001）によって標準化された情動知能尺度（５件法、65項目、３領域９尺度）である。この尺度は、自己対応（intrapersonal）、対人対応（interpersonal）、状況対応（situational）の３領域からなっていて、各領域はそれぞれの下位因子から構成されている。自己対応領域は、「もっぱら自己の心の働きについて知り、行動を支え、効果的な行動をとる能力」である。対人対応領域は、「他者の感情に関する認知や共感をベースに、他者との人間関係を結び維持することのできる能力」である。状況対応領域は、「自己を取り巻く、あるいは自己と他者を含む集団を取り巻く状況の変化に耐える力、リーダーシップ、また自己対応領域と対人対応領域の各種能力や技量を状況に応じて適切に使い分ける統制力」である。情動知能は理論的、測定論的にいろいろな観点から論じられているが、Petrides & Furnham（2000, 2001）は情動知能を特性的情動知能（Trait EI）と能力的情動知能（Ability EI）に分けることを提案している。前者は自己報告式の質問紙によって測定されることが多く、この EQS も、特性的情動知能を測定する質問紙の１つと考えられよう。実際、EQS の開発グループのメンバーである島井・大竹（2001）は、Bar-on（1997a, 2000）などの特性的情動知能の諸研究について触れて問題点を指摘しつつ、新たに状況対応領域を組み込むという彼らの EQS 尺度開発の経過を明らかにしている。

CPI（カリフォルニア人格検査、２件法、480項目、18尺度）は、精神医学的に疾患のない人びとを対象として開発されたものであり、その検査内容は、パーソナリティの健全で積極的な側面を把握できるような特性によって構成される。パーソナリティ特性の内訳は、大きく以下の４群に大別できるとされている。第１群は、心的安定感、優越性、自信の程度を測定している。これに関す

る尺度は、支配性（dominance）、社会的成就能力（capacity for status）、社交性（sociability）、社会的安定感（social presence）、自己満足感（self-acceptance）、幸福感（sence of well being）である。第２群は、社会化、成熟性、責任感の程度を測定している。関連する尺度は、責任感（responsibility）、社会的成熟性（socialization）、自己統制力（self-control）、寛容性（tolerance）、自己顕示性（good impression）、社会的常識性（commnunality）である。第３群は、成就能力と知的能力の程度を測定している。関連する尺度は、順応的な成就欲求（achievement via conformance）、自立的な成就欲求（achievement via independence）、知的能力（intellectual efficiency）である。第４群は、知的な型および興味様式を測定している。関連する尺度は、共感性（psychological-mindedness）、融通性（flexibility）、女性的傾向（feminity）である。なお、尺度の日本語と英語は必ずしも対応していないが、これは日本語版の著者らが内容を考慮して付けたものである。

国内における情動知能 EQS の研究については、すでに３つの研究（大野木,2004,2005；内山他,2001）が報告されている。それらは EQS とパーソナリティの Big-Five との相関的関係を見出しており、本研究はこれらに続いて EQS と他のパーソナリティ検査との相関的関係を明らかにしようとする１つの調査的研究である。

方　法

筆者の担当する心理学関係の５つの授業時間の受講生を調査協力者として依頼した。EQS と CPI は別の時間に回答を求めており、彼らの了解のうえ２度の回答が得られた分を集計・分析の対象とした。調査は2005年後期と2006年前期の大学工学部と教育地域科学部、医療技術系短期大学の学生で、合計248名（男97名、女151名）である。

結果と考察

回答の採点と得点化については、それぞれのマニュアル（内山ら,2001；我妻・川口・白倉,1967）に従って行った。以下の統計的処理には SPSS14.0J を使用した。

１．EQS と CPI の平均値、標準偏差

EQS を構成する下位尺度間の相関係数と平均値（標準偏差）は本稿末尾の付表１に示されている。これらの数値は前報（大野木,2004,2005）と大きくは変化していない。平均値はほぼ３点台であり、共感性と愛他心が少し高めに出ている点も同様である。相関係数もこれまでと同様であり、自己対応領域に関してはその３つの下位尺度である自己洞察、自己動機づけ、自己コントロールだけに高くなっている。同様にして、対人対応領域に関しては、その下位尺度である共感性、愛他心、対人コントロールの３つだけに高い。状況対応領域に関しては、その下位尺度である状況洞察、リーダーシップ、状況コントロールの３つだけに高い。３領域間の相互相関は.41、.59、.

49となり、これもまた前報と近い数値になっている。

付表２は CPI 尺度に関する相関行列である。概観すると、第１群のうち Wb 幸福感のみが Do 支配性など他の５つと比較して数値が低く、むしろ第２群や第３群との間の相関係数の方に高く出ている傾向が見られる。これと似た傾向は第２群にも見られる。Cm 社会的常識性が Re 責任感など他の５つと比べて低くなっている。ただ、Cm 社会的常識性は他の尺度との相関係数についても一貫して低い。第３群と第４群に関しては、Fe 女性的傾向尺度が一貫して他の尺度との相関係数が低い。参考までに、この18尺度（項目）に関して何通りかの因子分析を施すと２因子までは安定して得られるが、あとの因子は解釈が困難である。特に Cm 社会的常識性、Fx 融通性、Fe 女性的傾向は共通性(h^2)の値が小さくなる。信頼性分析によると、第１群の６項目で Cronbach の α 係数は.770であるが Wb 幸福感を落とした５項目では α＝.833に上昇する。第２群の６項目の α 係数は.748であるが Cm 社会的常識性を落とした５項目では α＝.818に上昇する。第３群は α＝.694（３項目）とやや低く、第４群は α＝.279（３項目）と非常に低い。次に付表３の平均値であるが、これは全般的に低い傾向が見られる。CPI は標準得点50、標準偏差10に標準化されているので、平均値のうち特に Wb 幸福感、Cm 社会的常識性が低い。Do 支配性、Cs 社会的成就能力、Sy 社交性、Re 責任感、Ac 順応的な成就欲求、Ie 知的能力も低い傾向が見られる。ただ、すべてが低いわけではなく、Fx 融通性、Fe 女性的傾向は50を超えている。この片寄りの理由については明らかではない。標準偏差については、ほぼ10前後となっている。

２．EQS の３領域と CPI の相関関係

EQS（９尺度＋３領域）と CPI（４群／18尺度）は尺度数が多いので、煩雑さを避けるために１つの相関行列を Table１と Table２の２つに整理して示しながら検討していく。

Table１は、EQS３領域と CPI（４群／18尺度）に関する相関係数をまとめたものである。

概観すると、統計的に有意な数値は３分の１ほど見られるものの、全般的に低い傾向がある。状況対応領域についてみると、相対的には CPI の第１群との間で高いが、CPI の第２～第４群までの組み合わせに関しては無相関か、有意であってもかなり低い。低いという傾向は、自己対応領域、対人対応領域と CPI 尺度との相関係数についても明らかである。

このように、CPI と EQS３領域の相関は一部で中程度の大きさに近い組み合わせ（状況対応領域×第１群の５尺度）があるものの、かなりが無相関か、あるいは有意であっても高くない。有意で.30以上を列挙するならば、Do 支配性と状況対応領域（r＝.36）、Sy 社交性と状況対応領域（r＝.44）、Sa 自己満足感と状況対応領域（r＝.44）の３つに留まっている。EQS３領域すべてと有意性を示す CPI 尺度は Do 支配性、Sy 社交性、Gi 自己顕示性の３つである。

３．EQS 下位尺度と CPI の相関関係

Table２は、引き続いて EQS の９尺度と CPI 尺度に関する相関係数である。Table２の左から３

Table 1　EQS と CPI 得点間の相関係数（その１）

CPI 尺度／EQS の３領域	自己対応領域	対人対応領域	状況対応領域
第１群			
１）Do 支配性	.18**	.21**	.36**
２）Cs 社会的成就能力	.23**	.12	.29**
３）Sy 社交性	.26**	.24**	.44**
４）Sp 社会的安定性	.02	.10	.22**
５）Sa 自己満足感	.16**	.08	.32**
６）Wb 幸福感	.08	−.02	.02
第２群			
７）Re 責任感	.10	.11	−.04
８）So 社会的成就性	.01	−.01	−.02
９）Sc 自己統制力	.08	−.11	−.10
10）To 寛容性	.12	.04	.10
11）Gi 自己顕示性	.25**	.14*	.14*
12）Cm 社会的常識性	.07	.05	.05
第３群			
13）Ac 順応的な成就欲求	.19**	.04	.11
14）Ai 自律的な成就欲求	−.08	−.14*	−.06
15）Ie 知的能力	.07	−.04	.08
第４群			
16）Py 共感性	.18**	.02	.14*
17）Fx 融通性	−.25**	−.06	−.16*
18）Fe 女性的傾向	.05	−.03	.05

＊＊p＜0.01（両側）、　＊　p＜0.05（両側）

つ（自己洞察、自己動機づけ、自己コントロール）は自己対応領域の下位尺度である。中央の３つ（共感性、愛他心、対人コントロール）は対人対応領域の下位尺度である。右の３つ（状況洞察、リーダーシップ、状況コントロール）は状況対応領域の下位尺度である。

（１）自己対応領域の下位尺度

自己洞察、自己動機づけ、自己コントロールに関する54個の相関係数は、いずれも絶対値で.00～.30の範囲にある。Do 支配性・Cs 社会的成就能力・Sy 社交性（以上、CPI 尺度）と、自己洞察・自己動機づけ・自己コントロール（以上 EQS 下位尺度）間の９つの相関係数がすべて有意になっているのをはじめとして統計的に有意になっている数値は全体の３分の１以上ある。しかし、それらは低い数値にとどまっていて、自己対応領域に関する Table 1 の結論を裏付ける。

Table 2　EQS と CPI 得点間の相関係数（その２）

EQS		自己対応領域			対人対応領域			状況対応領域		
CPI（18尺度）		a）自己洞察	b）自己動機づけ	c）自己コントロール	d）共感性	e）愛他心	f）対人コントロール	g）状況洞察	h）リーダーシップ	i）状況コントロール
第1群	1）Do 支配性	.16**	.17**	.18**	.11	.04	.30**	.28**	.44**	.34**
	2）Cs 社会的成就能力	.15*	.17**	.23**	.03	.03	.30**	.24**	.22**	.27**
	3）Sy 社交性	.21**	.19**	.26**	.16*	.02	.42**	.36**	.37**	.44**
	4）Sp 社会的安定性	.09	−.03	.04	.06	−.00	.20**	.27**	.18**	.19**
	5）Sa 自己満足感	.11	.09	.13*	.06	−.09	.28**	.27**	.32**	.32**
	6）Wb 幸福感	.11	.04	.09	−.03	−.07	.00	.04	−.01	.08
第2群	7）Re 責任感	−.04	.21**	.10	.12	.26**	.05	.01	−.04	−.00
	8）So 社会的成就性	.01	.00	.05	.03	.09	−.02	−.02	−.02	−.00
	9）Sc 自己統制力	.07	.00	.12	−.06	−.08	−.10	−.05	−.16*	−.04
	10）To 寛容性	.08	.11	.11	.05	.01	.09	.13*	.06	.12
	11）Gi 自己顕示性	.12	.23**	.30**	.18**	.08	.20**	.17**	.02	.20**
	12）Cm 社会的常識性	.08	.12	.00	.12	.09	.03	.04	.15	.10
第3群	13）Ac 順応的な成就欲求	.14*	.16*	.17**	.05	.03	.07	.09	.03	.15*
	14）Ai 自律的な成就欲求	−.20	−.07	−.00	−.06	−.11	−.13*	−.02	−.09	−.06
	15）Ie 知的能力	.07	.03	.13*	−.01	−.03	−.01	.12	−.00	.11
第4群	16）Py 共感性	.09	.14*	.23**	.04	−.03	.11	.18**	.12	.19**
	17）Fx 融通性	−.20**	−.25**	−.17**	−.02	−.07	−.04	−.08	−.17	−.11
	18）Fe 女性的傾向	.04	.02	.08	−.03	−.03	−.01	.01	.04	.07

＊＊p＜0.01（両側）、　＊　p＜0.05（両側）

（２）対人対応領域の下位尺度

54個の相関係数のかなりの部分が低く、有意な値は９つに留まっている。これらの低さは対人対応領域に関する Table１の結論を裏付けているといえよう。.30以上の中程度の数値を目安にすると該当する相関係数は３つある。対人コントロール尺度と Do 支配性（.30）、対人コントロール尺度と Cs 社会的成就能力（.30）、対人コントロール尺度と Sy 社交性（.42）である。対人コントロール尺度は第１群の５つの尺度（Wb 幸福感を除く）のいずれとも有意である。

（３）状況対応領域の下位尺度

CPI の第１群５尺度（Wb 幸福感を除く）と、EQS の状況洞察・リーダーシップ・状況コントロールの間の15の相関係数の組み合わせはいずれもすべて有意である。中程度の相関がかなり散見される。それらを列挙すると、状況洞察と Sy 社交性（.36）、リーダーシップと Do 支配性（.44）、リーダーシップと Sy 社交性（.37）、リーダーシップと Sa 自己満足感（.32）、状況コントロールと Do 支配性（.34）、状況コントロールと Sy 社交性（.44）、状況コントロールと Sa 自己満足感（.32）である。それ以外の数値は低い傾向が見られる。

以上の結果をまとめると、EQS の状況対応領域は CPI 第１群（Wb 幸福感を除く５尺度）を中心に

Table 3　EQS と Big-five に関する３つの相関研究の対照表（大野木,2005を再掲）

１）EQS の自己対応領域と Big-Five（あるいは主要５因子）との相関係数					
BFPI	外向性（.299）	協調性（.337）	勤勉性（.441）	情緒安定性（.184）	知性　（.481）
NEO-PI-R	外向性（.16）	調和性（.12）	誠実性（.46）	神経症傾向（－.24）	開放性（.24）
FFPQ	外向性（.30）	愛着性（.41）	統制性（.42）	情動性　（－.27）	遊戯性（.33）
２）EQS の対人対応領域と Big-Five（あるいは主要５因子）との相関係数					
BFPI	外向性（.304）	協調性（.452）	勤勉性（.305）	情緒安定性	知性　（.347）
NEO-PI-R	外向性（.36）	調和性（.33）	誠実性（.29）	神経症傾向	開放性（.24）
FFPQ	外向性（.34）	愛着性（.54）	統制性（.26）	情動性	遊戯性（.34）
３）EQS の状況対応領域と Big-Five（あるいは主要５因子）との相関係数					
BFPI	外向性（.420）	協調性（.364）	勤勉性（.367）	情緒安定性（.247）	知性　（.587）
NEO-PI-R	外向性（.31）	調和性（.15）	誠実性（.35）	神経症傾向（－.27）	開放性（.22）
FFPQ	外向性（.47）	愛着性（.35）	統制性（.34）	情動性　（－.42）	遊戯性（.34）

注．BFPI は内山ら（2001）の研究［n＝858］、NEO-PI-R は大野木（2004）の研究［n＝398］、FFPQ は大野木（2005）の研究［n＝213］　ピアソンの相関係数はそれぞれ $p<0.05$ の値のみかっこの中に数値を掲載

有意な正の相関が認められる。また特に、EQS の自己コントロール、対人コントロール、状況コントロール尺度で CPI 尺度と有意になっているものが目立っている。ただ、EQS と CPI のその他の半数以上の組み合わせが無相関であり、有意な組み合わせも３分の１程度見られるものの全般的に高くないと結論されよう。

４．先行研究との対比

特性的情動知能尺度とされる Bar-On（1997ab, 2000）の EQ-i に関する研究をみると、EQ-i は、Big-Five のようなパーソナリティ特性と中程度以上の相関を示すという報告がある（例えば、Dawda & Hart, 2000）。EQS については、Table３にあるように、３種類の Big-Five 尺度のいずれについても EQS と Big-Five の相関が認められることは明らかである。そこで、本研究で18のパーソナリティ特性尺度を持つ CPI と EQS が低いながらも何らかの統計的な関連性を示すことは、これらの流れの中で新たな知見を追加することに貢献しているものと考えられよう。

EQS の相関に関する第１の結論は、先行研究の Big-Five よりもこの CPI の方が相関係数の数値が全般的に低いということである。それでも、CPI の第１群尺度（心的安定感、優越性、自信の程度を測定）の多くが EQS の状況対応領域と中程度に近い有意な相関を示している。数値は低いものの、ある程度の無視できない数の相関係数が有意となっている。したがって、EQS がパーソナリティ特性と密接な結びつきを示すという結論は拡張されものと考えたい。ただ、CPI 尺度そのものが古くなっているか、あるいは本研究に限ってデータに何らかの片寄りがある可能性も残

されていることは銘記しておく必要があるだろう。

ところで、Bar-on の EQ-i は、伝統的な知能検査とは関連性が薄いとする報告が多い。例えば、Bar-on（1997a）は、EQ-i と WAIS（成人用ウェクスラー検査）の間に相関関係が見られないと報告している（ただし、ケース数は40名と小さく、WAIS は総点であるが）。また、Newsome, Day, & Catano（2000）は、EQ-i と認知能力を調べる課題（Wonderlic Personnel Test）間に相関が見られないと報告している。Derksen, Kramer, & Datzko（2002）は、EQ-i と、流動性知能を測定する非言語性の成人用一般知能検査（General Adult Mental Ability Scale ; GAMA）の関係を調べたが、EQ-i 総点は GAMA とは関連性が得られず、EQ-i のストレス尺度（r=.10）や一般的ムード尺度（r=.12）とだけ有意だが低い相関が得られたとしている。このようなことから、EQS が伝統的な知能検査などとどのような関係にあるのかを検討することも、測定論的に情動知能の概念を明確化していくことの今後の手がかりになるのではないかと考えられる。

能力的情動知能尺度として有力視されている尺度の１つは、Mayer, Salovey, & Caruso（2002ab）によって開発された MSCEIT（メイヤー・サロベイ・カルーソ情動知能テスト［メスキート］）である。Day & Carroll（2004）は、MSCEIT と Big-Five 間の相関は見られないか、有意であっても小さい（最大で.23）と報告している。Warwick & Nettelbeck（2004）は、MSCEIT と Big-Five 間にほとんどの組み合わせで有意な相関関係を見出していない。このように MSCEIT がパーソナリティ特性とは別の何かを測っていることは明らかである。ただ、MSCEIT は実施や採点に時間がかかる上に、まだ開発途上の色彩が強いので、この種の能力的情動知能（Ability EI）の測定もまた開発途上にある。

特性的情動知能（Trait EI）に焦点化した EQS の研究が進むとともに、本邦でも能力的情動知能（Ability EI）に焦点化した尺度もまた開発が待たれる。これらにより総合的に情動知能の特徴が両面から追究されていくものと考えられる。

要　約

大学生248名（男子97名、女子151名）が、情動知能尺度 EQS とパーソナリティ検査 CPI に回答した。相関的分析により得られた主な結果は次のようである。(1)EQS の３領域（自己対応、対人対応、状況対応）すべてと有意な相関のある CPI 尺度は Do 支配性、Sy 社交性、Gi 自己顕示性であった。(2)EQS 自己対応領域の３つの下位尺度（自己洞察、自己動機づけ、自己コントロール）と CPI 尺度（第１群の Do 支配性、Cs 社会的成就能力、Sy 社交性、および第４群の Fx 融通性（－））間の相関係数の組み合わせはすべて有意であった。(3)EQS 対人対応領域の３つの下位尺度（共感性、愛他心、対人コントロール）のいずれとも有意性を示す CPI 尺度は見出されなかった。(4)EQS の状況対応領域の３つの下位尺度（状況洞察、リーダーシップ、状況コントロール）と CPI 尺度（Do 支配性、Cs 社会的成就能力、Sy 社交性、Sp 社会的安定性、Sa 自己満足感）の相関係数の組み合わせはすべて有意であった。

(5)CPI 第２～第４群の尺度と EQS３領域間では、無相関か有意でも低い相関関係にとどまった。以上の結果に基づいて、先行研究にあらわれた EQS と Big-Five との相関係数を本研究と対比的に考察すると、対 CPI の方が全般的に数値が低い傾向にあると考えられた。

＜付記＞本研究の一部は日本パーソナリティ心理学会第15回大会（東京富士大学、2006年）において発表された。

引用文献

Bar-On, R.（1997a）Development of the Bar-On EQ-i : A measure of emotional intelligence. *The 105th Annual Convention of the American Psychological Association in Chicago in August,* 1-32.

Bar-On, R.（1997b）*EQ-i : Bar-on Emotional Quotient Inventory.* Toronto, Canada : Multi-Health Systems.

Bar-On, R.（2000）Emotional and social intelligence : Insights from the Emotional Quotient Inventory（EQ-i）. In R. Bar-On & J. D. A. Parker（Eds.）, *The handbook of emotional intelligence : Theory, development, assessment, and application at home, school and in the workplace.* San Francisco : Jossey-Bass. Pp. 363-388.

Dawda, D., & Hart, S. D.（2000）Assessing emotional intelligence : Reliability and validity of Bar-On Emotional Quotient Inventory（EQ-i）in university students. *Personality and Individual Differences, 28,* 797-812.

Day, A. L., & Carroll, S. A.（2004）Using an ability-based measure of emotional intelligence to predict individual performance, group performance, and group citizenship behaviours. *Personality and Individual Differences, 36,* 1443-1458.

Derksen, J., Kramer, I., & Datzko, M.（2000）Does a self-report measure for emotional intelligence assess something different than general intelligence? *Personality & Individual Differences, 32,* 37-48.

Mayer, J. D., Salovey, P., & Caruso, D.（2002a）*Mayer-Salovey-Caruso Emotional Intelligence Test (MSCEIT),* version 2.0 Toronto, Canada : Multi-Health Systems.

Mayer, J. D., Salovey, P., & Caruso, D.（2002b）*MSCEIT technical manual.* Toronto, Canada : Multi-Health Systems.

Newsome, S., Day, A. L., & Catano, V. M.（2000）Assessing the predictive validity of emotional intelligence. *Personality and Individual Differences, 29,* 1005-1016.

大野木裕明（2004）情動知能指数（EQS）と自我態度スケール（EAS）および短縮版ネオ人格目録改訂版（NEO-FFI）間の相関的関連性　*福井大学教育地域科学部紀要（第Ⅳ部）60,* 1-8.

大野木裕明（2005）EQS（情動知能指数）と FFPQ（５因子性格検査）間の相関的研究　*福井大学教育地域科学部紀要（第Ⅳ部）61,* 17-26.

Petrides, K.V., & Furnham, A.（2000）On the dimensional structure of emotional intelligence. *Personality and Individual Differences,29,* 313-320.

Petrides, K.V., & Furnham, A.（2001）Trait emotional intelligence : psychometric investigation with reference to stablished trait taxonomies. *European Journal of Personality, 15,* 425-448.

島井哲志・大竹恵子（2001）情動知能：その概念、評価方法と応用の可能性　*神戸女学院大学論集　48(1),* 159-173.

内山喜久雄・島井哲志・宇津木成介・大竹恵子（2001）*EQS マニュアル*　実務教育出版

我妻洋・川口茂雄・白倉憲二（1967）*カリフォルニア人格検査（CPI）・実施手引*　誠信書房

Warwick, J., & Nettelbeck, T.（2004）Emotional intelligence is...? *Personality and Individual Differences, 37,* 1091-1100.

付表 1　EQS 尺度得点間の相関係数および平均値（標準偏差）

尺　度	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	平均値（標準偏差）
1）自己洞察	.35	.46	.14	.09	.31	.48	.40	.43	.65	.22	.48	3.36（0.92）
2）自己動機づけ		.53	.33	.35	.40	.35	.29	.30	.73	.42	.36	3.47（1.01）
3）自己コントロール			.26	.31	.48	.52	.39	.53	.78	.39	.59	3.16（0.98）
4）共感性				.50	.43	.32	.17	.24	.27	.71	.28	3.92（0.93）
5）愛他心					.42	.21	.10	.18	.29	.70	.23	3.79（1.03）
6）対人コントロール						.53	.54	.60	.50	.72	.62	3.30（0.92）
7）状況洞察							.56	.61	.53	.43	.82	3.23（1.03）
8）リーダーシップ								.57	.44	.34	.72	2.99（0.96）
9）状況コントロール									.51	.41	.78	3.27（1.05）
10）自己対応領域										.41	.59	3.26（0.92）
11）対人対応領域											.49	3.63（0.94）
12）状況対応領域												3.11（0.96）

n ＝248

付表 2　CPI 尺度得点の相関係数

CPI 尺度	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)
1）Do 支配性	.43	.63	.38	.46	.19	.24	.09	.03	.28	.29	.21	.28	.19	.25	.31	−.03	.05
2）Cs 社会的成就能力		.56	.38	.42	.20	.13	.06	.07	.44	.42	.09	.33	.23	.24	.34	.22	.03
3）Sy 社交性			.57	.65	.14	.16	.08	−.01	.41	.35	.11	.34	.16	.22	.28	.02	−.03
4）Sp 社会的安定性				.48	.16	.01	.01	−.16	.35	.12	.01	.12	.13	.24	.23	.26	−.16
5）Sa 自己満足感					.05	.08	.01	−.04	.30	.16	.21	.25	.22	.20	.26	.08	.09
6）Wb 幸福感						.45	.47	.55	.50	.56	.04	.47	.39	.47	.30	.15	.00
7）Re 責任感							.53	.43	.45	.44	.28	.51	.38	.36	.23	−.00	.20
8）So 社会的成就性								.54	.39	.37	.19	.50	.35	.37	.20	.00	.14
9）Sc 自己統制力									.45	.59	.07	.53	.49	.40	.31	.18	.19
10）To 寛容性										.56	.10	.51	.51	.48	.45	.27	.12
11）Gi 自己顕示性											.09	.57	.41	.33	.46	.16	.11
12）Cm 社会的常識性												.13	.10	.19	.12	−.11	.14
13）Ac 順応的な成就欲求													.46	.37	.30	−.01	.15
14）Ai 自律的な成就欲求														.47	.36	.29	.16
15）Ie 知的能力															.40	.16	.04
16）Py 共感性																.31	.04
17）Fx 融通性																	−.02
18）Fe 女性的傾向																	

n ＝248

付表 3　CPI 尺度得点の平均値（標準偏差）

尺　　度	平均値（標準偏差）
1）Do 支配性	35.96(9.87)
2）Cs 社会的成就能力	37.31(9.70)
3）Sy 社交性	36.09(11.33)
4）Sp 社会的安定性	41.75(10.23)
5）Sa 自己満足感	44.44(10.83)
6）Wb 幸福感	30.23(13.15)
7）Re 責任感	37.26(9.56)
8）So 社会的成就性	44.46(11.21)
9）Sc 自己統制力	43.54(10.21)
10）To 寛容性	42.13(10.16)
11）Gi 自己顕示性	42.60(10.22)
12）Cm 社会的常識性	31.83(14.33)
13）Ac 順応的な成就欲求	35.29(9.75)
14）Ai 自律的な成就欲求	49.02(10.48)
15）Ie 知的能力	36.67(11.24)
16）Py 共感性	45.12(11.10)
17）Fx 融通性	58.83(12.03)
18）Fe 女性的傾向	52.14(10.66)

n ＝248